

Lesson 2 THE FATHER OF THE CENTURY

第2課 世紀の父

P.18

Part 1

ディック・ホイトは、普通のお父さんではありませんでした。

彼は、車椅子に乗る自分の息子、リックを押して、85回マラソン大会に出場したのです。

彼は、8回リックを、42.2キロメートル押して、小さなボートを引っ張りながら3.86キロメートル泳いで、自転車の前にリックを乗せて180.2キロメートルをこぎました。

しかも、全部同じ日に！それだけではなく、ディックはリックを背中におんぶして山登りをしたり、クロスカントリー競技で引っ張ったりしました。

この愛の物語は、1962年マサチューセッツ州から始まります。

その年、リックは脳障害を持って生まれてきました。

彼は、しゃべることができませんでした。

「彼は生涯考えることも動くこともできません」と医者はリックが9ヶ月の時、ディックと奥さんに告げました。

「施設に入れるのがいいでしょう」と言われたが、ホイト家は反対しました。

〔解答〕

1. Dick Hoyt pushed his son in 85 marathons.
2. Rick was born in 1962 in Massachusetts.
3. The doctor told Dick and his wife that Rick will never be able to think or move.

〔訳〕

1. ディック・ホイトは、息子を85回のマラソンにおいて押した。
2. リックは、1962年、マサチューセッツで生まれた。
3. 医者はディックと彼の妻にリックは決して考える事も動く事も出来ないだろうと言った。

P.19

Part2

「彼の頭の中では何も起きていません」と大学の研究者たちはリックが11歳の時、両親に言いました。

しかし、彼は実際には色々なことを考えていたのです。

スイッチでコントロールできるコンピューターを使ってリックはようやく会話ができるようになりました。

彼の初めて発した言葉は、「ブルーインズ頑張れ」でした。

ある日、高校の同級生が事故で重症をおい学校が事前競争大会を始めたのです。

「お父さん、僕これやりたい。」リックは頭の横側でスイッチを叩きました。

ディックは一度に2キロメートル以上走った事はありませんでした。

それでも頑張りました。

「大会の後は僕の身体が動かなくなったよ」とディックは言いました。

「2週間も筋肉痛でした。」

〔解答〕

1. They told them that nothing is going on in Rick's brain.
2. Rick used a computer to communicate.
3. Rick wanted to take part in the charity run.

〔訳〕

1. 彼らはリックの脳では何も働いていないと彼らに言った。
2. リックは、コミュニケーションをするためにコンピューターを使った。
3. リックは慈善競技大会に参加した。